

令和4年度

事業報告書



届けよう 小さな愛
つなげよう 笑顔の輪

社会福祉法人 湯沢町社会福祉協議会

はじめに

町民皆様には、日頃より社会福祉協議会にご理解とご支援をいただいておりますことに、改めて御礼申し上げます。毎年この時期には1年間の業務内容と決算状況を理事会と評議員会に説明し、承認を得た上で皆様にご報告させて頂いております。

近年ますます進む少子高齢化の影響で、地域における福祉課題も以前より具体化してきているように見受けられます。また少子化は家族形態の変化にもつながり、今後の居宅介護や施設介護へのニーズ（要望）とその受け皿となる介護職員や関係施設の配置など、さまざまな面から福祉と介護の問題が重要視されて来ると思います。

私ども社会福祉協議会においては限られた人員と限られた予算ではありますが、民様の笑顔と明るい町のため、役職員一同共通の理念を持って社協の業務運営に当たっております。

湯沢町社会福祉協議会の理念

- 地域社会に対して社協は何をなすべきか、自分の責務は何かを常に考える。
- 組織内の融和を図るとともに、少数職員のため皆が（事務職、介護専門職）協力して業務を遂行する。
- 湯沢町社協には50年の歴史があることを認識し、更なる発展のため一步一步を町民とともに歩む。

令和5年度も引き続きご理解いただきますようお願い申し上げます。

令和5年5月

社会福祉法人湯沢町社会福祉協議会

会長 佐久間 知良

事業報告

1. 理事会・評議員会等

	開催数	日にち
理事会	5回	5月31日、9月29日、12月23日、3月23日
評議員会	2回	6月14日、3月30日
会計監査	1回	5月20日 上記のほか、税理士法人による外部監査を12回実施

※ その他必要に応じて会長・副会長・事務局長会議を開催

2. 役職員体制

R5.3.31 現在 () 内は R4.3.31

- (1) 理事 8名
- (2) 監事 2名
- (3) 評議員 9名
- (4) 職員

	事務局	訪問介護	通所介護	居宅介護	児童クラブ	計
正職員	6 (5)	4 (4)	10 (9)	1 (3)	2 (2)	23 (23)
準職員	0 (0)	0 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (2)
登録職員	1 (2)	2 (2)	13 (14)	1 (1)	7 (5)	24 (24)
嘱託職員				2 (1)	1 (1)	3 (2)
計	7 (7)	6 (7)	24 (24)	4 (5)	10 (8)	51 (51)

- * 兼務職員は本来業務の所属に掲載
- * 通所介護事業所の送迎車両運転員をパート雇用し、介護職員が業務に専念できるようにしていました。
- * 下記理由により、児童クラブ管理者として非常勤嘱託員を配置した。
 - ① コロナ禍の中、不測の事態に即応できる体制構築のため。
 - ② 子育て支援課及び児童クラブ施設の新築があったことから、社協の窓口担当として、教育委員会との協議、検討、調整にあたるため。

3. 主な行事・大会

期 日	内 容	会 場	参 加 者
4月21日	町老人クラブ連合会役員会	湯沢町公民館	事務局
4月28日	保護司会総会	南魚沼市	事務局
5月20日	会計監査	総合福祉センター	監事、事務局
31日	第1回理事会	総合福祉センター	理事、監事、事務局
31日	第1回共募運営委員会	総合福祉センター	運営委員、事務局
6月14日	第1回評議員会	総合福祉センター	評議員、会長、監事、事務局
17日	第1回共募助成審査会	総合福祉センター	助成審査委員、事務局
30日	県共募評議員会	総合福祉センター	局長 遠隔会議（リモート）
7月5日	社会を明るくする運動	町内全域	湯沢地区保護司、事務局
7月20日	県社協事務局長会議	総合福祉センター	局長 遠隔会議（リモート）
8月4日	県共同募金事務局長会議	総合福祉センター	局長 遠隔会議（リモート）
9月29日	第2回理事会	総合福祉センター	理事、監事、事務局
10月13日	県監査・講評	総合福祉センター	会長・事務局
16日	ふれあい福祉健康フェスティバル	カルチャーセンター	副会長、事務局
20日	南魚沼地区社会福祉大会	振興局講堂	事務局
21日	湯沢町高齢者福祉大会	湯沢町公民館	副会長、事務局
25日	保護司会保護司候補者検討会	ふれ愛支援センター	事務局
11月10日	県民福祉大会	長岡市立劇場	会長、理事、監事
12月23日	第3回理事会	総合福祉センター	理事、監事、事務局
2月21日	第2回共募助成審査会	総合福祉センター	助成審査委員、事務局
3月22日	保護司会関係者会議	ふれ愛支援センター	事務局
23日	第4回理事会	総合福祉センター	理事、監事、事務局
23日	第2回共募運営委員会	総合福祉センター	運営委員、事務局
28日	県共同募金臨時評議員会	総合福祉センター	局長 遠隔会議（リモート）
30日	第2回評議員会	総合福祉センター	評議員、会長、監事、事務局

*中止・縮小等の事業

実施予定日	内 容	会 場	備 考
7月1日	高齢者大運動会	カルチャーセンター	内容変更 （みんなでポッチャ）
9月上旬	敬老会	カルチャーセンター	中止
10月16日	ふれあい福祉健康フェスティバル	カルチャーセンター	縮小
20日	南魚沼地区社会福祉大会	地域振興局	縮小（表彰のみ）

4. 法人運営事業

① 信頼される法人運営

社協は民間の社会福祉法人であり、その業務は町民や福祉関係者に支えられた「公共性」と、デイサービスやヘルパー等の介護サービス経営を行う「事業性」の二面を有しています。特に近年は介護保険事業において、介護報酬単価が上がらないことや介護人材不足に起因した減収により事業の採算が取れない状況に苦慮しておりますが、会員である町民の皆さんが「安全・安心に暮らせる町」を目指し、社協運営と事業展開に努めました。

② 社協会費

社協の運営と活動は皆さまからの会費（700円）と町からの補助金、そして共同募金の配分金や県社協の補助金、さらに介護保険事業収入などで賄われております。例年町内会の皆さまには会費の取りまとめをお願いし、納入いただいていることにお礼申し上げ、併せて地域福祉事業の向上のため引き続き納入にご理解とご協力を賜るようお願いいたしました。事業所等の皆さまにも特別会員としてご加入いただくよう勧めてまいりました。

社協会費収入の推移

単位千円

H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
1,421	1,407	1,403	1,410	1,406
会費の主な用途は次のとおりです。 ○援護費（長期入院入所者援助、母子父子世帯援助） ○地域福祉費（老人福祉、障害者福祉、ボランティア活動、サロン）				

③ 財務の適正運営

財務運営については社会福祉法人会計基準及び湯沢町社会福祉協議会経理規程に則り適正に執行してまいりました。

監査については、2名の監事による内部監査を年1回実施するとともに、社会福祉法人の運営と経理に精通した税理士法人に毎月の外部監査を委託し、より高度な監査体制で適切な会計運営を行っております。

④ 第2期湯沢町地域福祉活動計画の推進と進捗管理

第2期地域福祉活動計画に基づき、令和3年度社会福祉協議会事業について事業推進委員会において検証・評価をしました。（事業推進委員会 1月24日、3月3日開催）

⑤ 法人全体の課題把握と業務改善への着手

運営委員会を毎月1回開催し、介護保険事業所の経営状況や法人全体の課題について検討しました。新潟青陵大学教員4名をアドバイザーに「地域と歩む湯沢町社協深化プロジェクト」を立ち上げ実施しました。

⑥ 通所介護サービス利用者送迎事業の拡充

シルバー人材センターと労働者雇用契約を結び、当会送迎車を活用し、三国地区等のデイサービス利用希望者に対して送迎サービスを実施しました。現在、水・木・金曜日に稼働。延べ18名の利用者を各デイサービスに送迎しています。

5. 地域福祉事業

基本目標Ⅰ 『これからの地域を支える「人」を増やそう』

実施プラン1：参加・活動できる場面をつくろう

① 「個々のボランティア活動、湯沢町ボランティア連絡協議会の活動を支援します。」

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の終息することはありませんでしたが、昨年度の比べると感染対策を行いながらボランティア活動が実施できたと思います。3年振りとなる湯沢町ふれあい福祉健康フェスティバル開催へ支援しました。

② 「新たな人材発掘、育成の為に講座等の企画、活動のPRをします。」

多数集合型の研修会を開催することはできませんでした。広報紙「社協ゆざわ」やホームページを活用し、活動希望者の募集を行いました。

③ 「既存の取り組みや活動を把握し、コーディネート機能を充実します。」

個人・団体加入しているボランティアや活動を把握し、必要時に相談や調整・紹介を行いました。

実施プラン2：みんなで意識を高めよう

① 「若い世代の方も参加できるような地域活動参加のための研修会や交流会を開催します。・・・新型コロナウイルス感染症拡大により研修会や交流会を開催しませんでした。」

実施プラン3：全世代でふくし教育を進めよう

① ボランティア体験・認知症サポーター養成講座・防災教育の開催

湯沢学園や児童クラブと連携し、夏休みボランティア体験を実施することで福祉教育の推進を図りました。

夏休み中のボランティア体験（活動別延人数）

ボランティア内容	児童クラブ	一般生徒	計	昨年	増減
配食サービス	0	15	15	14	1
いきいきサロン	1	3	4	5	-1
音声訳体験	0	0	0	4	-4
点字で名刺を作ろう	0	4	4	6	-2
手話で歌ってみよう	0	2	2	4	-2
車椅子体験	0	4	4	2	2
アクション農園	10	0	10	3	7
ボッチャ体験	0	5	5	2	3
24時間テレビ街頭募金	0	11	11	0	11
合計	11	44	55	40	15

○認知症サポーター養成講座

令和4年8月1日開催 湯沢児童クラブ児童 35名 スタッフ6名参加

○防災教育（令和4年8月10日開催）

内容：地震災害について学ぼう、災害飯を作ろう、避難所を作ってみよう

- ・湯沢児童クラブ児童 23名
- ・湯沢町赤十字奉仕団 9名参加



② 学校地域での事業の企画支援

学校や地域からの支援要請はなし。

③ 湯沢学園や湯沢児童クラブと連携した多世代参加事業の実施

世代間交流事業しめ縄づくり 23名参加（うち子ども11名）

④ 福祉教育推進地区支援事業・・・支援事業利用地区はありませんでした。

基本目標Ⅱ 『みんながつながる場をつくろう』

実施プラン1：みんなが集まれる場づくり

世代の異なる人や障害の有無等にとらわれない交流の場として、しめ縄づくりの開催や男の料理教室、ポッチャの会、針と糸の会の開催・運営支援を行ないました。

実施プラン2：気軽に集まれる場を増やそう

生きがいの場となっている各種サロン活動の充実を図りました。

各種サロンの運営と支援

	ふれあいサロン	いきいきサロン	やまぶきの集い
開催回数	48	44	11
延参加者数	218	516	103
延ボランティア数	118	322	68
1回当たり参加者数	5	12	9

実施プラン3：想い・悩みを話せる場づくり

当事者組織の活性化や出会いの場づくりとして、町内の関係団体への活動支援を行いました。また、各団体と連携することで、生じている課題等検討を行いました。

- ・民生児童委員協議会
- ・保護司会
- ・老人クラブ連合会
- ・ボランティア連絡協議会
- ・知的障害者団体
- ・身体障害者団体
- ・その他

基本目標Ⅲ 『みんなで支え合える仕組みづくり』

実施プランⅠ：困りごとをみんなで支え合おう

① 湯沢町より生活支援体制整備事業を受託し、生活支援コーディネーター業務と協議体運營業務を実施しました。地域の助け合い体制づくりとして住民参加型在宅福祉サービス湯沢つながり隊や湯沢雪堀隊の運営を行ないました。また、活動者同士の情報交換会やチラシ発行を実施しました。

○ R4湯沢つながり隊の利用実績

利用延べ件数	160件					
活動内容	掃除	買い物	ゴミ出し	通院手続介助	話し相手	その他
	38件	27件	55件	7件	24件	9件
利用実人数	52名（各月の実人数の計／3～5人）					
活動会員実人数	41名（各月の実人数の計／2～4人）					
活動支援費	1時間 400円					

○ R4湯沢雪堀隊の利用実績

延べ利用件数	5件
活動内容	家周り除雪、玄関先帰路除雪
利用実人数	3名
活動会員実人数	5名
活動支援費	1時間 1000円

② 関係機関や事業利用者からの相談を受け、電話対応だけでなく訪問を行なうことで状況把握に努めました。また、評価も含めて支援を継続しました。



実施プランⅡ：孤立しない地域にしよう

配食サービスや安心安全見守りネット、湯沢つながり隊やその他事業や専門職等と連携を図ることで、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう見守り体制を強化しました。また、当協議会ではさまざまな事業実施、受託事業を行うなかで、訪問・見守り体制の確立や多様な機関との連携を図りました。

・安心安全見守りネット事業

高齢者世帯や障害をお持ちの世帯で見守りが必要な方へ、週1回程度支援員が訪問し安否確認を行いました。 訪問対象世帯 12帯 延350回訪問

※支えを必要とする人たちへの支援状況は、次のとおりです。

(単位：人・千円)

事業名	利用者数	決算	備考
長期入院入所者援助	10	300	共同募金、会費
歳末助け合い慰問	78	607	共同募金
行路人旅費支給	6	4	町補助金
母子父子世帯入学卒業祝い金支給	1	5	会費、町補助金
配食サービス	65	3,392	受託事業
高齢者世帯等住宅除雪援助	40	926	受託事業
寝具クリーニング援助	10	167	受託事業
家族介護用品支給	50	1,843	受託事業
保育支援	-	1,762	受託事業
ひきこもり支援	0	0	受託事業

基本目標Ⅳ 『みんながつながるために「しらせ」を広げよう』

実施プラン1：みんなにしらせを届けよう

広報紙「社協ゆざわ」を年4回発行しました。写真を多く活用し、見やすく目に留まるよう工夫しました。

紙面だけでなくホームページ等も活用しました。



実施プラン2：みんなの思いを受け止めよう

総合福祉センターの窓口機能として、来所や電話での相談があった時は一旦受け止めた上で判断し、必要な支援者・機関へ紹介しました。また、個別ケースにおいては自宅へ訪問し、他機関と協働しながら相談や支援を行ないました。

① 資金等貸付け事業の実施

資金等貸付事業の実施状況は、次のとおりです。

○ 生活福祉資金貸付状況（県社協事業主体）

「コロナ特例貸付」が始まって3年目となり、令和4年9月末までコロナ感染拡大の影響を受けて休業や失業などによる収入の減があった方への貸し付けを行いました。

※ R2～R4 合計（貸付総件数 137件 貸付総額 25,480,000円）

借入相談件数は大分落ち着きましたが、今後は返済について長期にわたり対応していくこととなります。県社協事業であるため、当法人予算には反映されず、県から交付される事務費のみ法人収入で計上しています。

*その他通常制度による前年度からの継続貸付件数（各種合算）16件

R4年度新規貸付件数 1件 R4年度償還完了件数 3件

○ 小口資金（湯沢町社協事業主体）・・・3万円未満の小口資金貸付制度

・新規貸付 0件 ・前年度からの継続貸付件数 1件

（ 資金残高 R5.3月末 1,204,681円 ）

② 受託事業

○ 日常生活自立支援事業（1,472千円）

認知症高齢者や知的障がい者・精神障がい者等で、日常生活を営む上で支障や不安のある方に対し、金銭や書類の管理、福祉サービス利用の支援を行いました。

・利用者数 19名 ・生活支援員数 11名

・延支援回数 154回 ・延べ相談件数 445件

○ 成年後見制度法人後見支援事業（187千円）

今年度内に3名が永眠にて終了、新規1名受任しています。年度を通して高齢者4名の後見支援を行いました。後見活動延べ件数は、279回となっています。

その他、成年後見制度申立ての支援とその他相談等を適宜実施しています。

（延べ38件）

○ 町民福祉関係者研修会（実施回数 2回）

日にち	研修名	参加者数
10月28日	終活とおひとりさまに備える研修会	75名
11月18日	あなたが亡くなった時、 誰に死後のことを託しますか	55名



6. 指定管理業務（湯沢児童クラブ運営）

湯沢児童クラブを指定管理業務として運用するようになってから、7年が経過いたしました。運営にあたっては社会福祉協議会の特性を生かし、行事にはボランティア団体などの協力を得るなどして業務を行いました。

今年度も新型コロナウイルス感染症により、学級・学年閉鎖に伴い利用者が減少するなど影響を受けましたが、濃厚接触者等の対応の変更や、感染症対策を身に付けたことで、手作りおやつや長期休み期間中の行事など、少しずつ以前のように活動することが出来ました。

年度末には新施設への移転がありましたが無事に終わり、今後は定員数が大幅に増えるため、以前から懸案事項とされている指導員不足や、支援を要する児童や配慮が必要な児童等の受け入れによる指導員の確保等、問題解決が求められています。

更に区域外就学児童の対応等、これからも利用者受け入れについて、湯沢町と湯沢町教育委員会に協議していく必要があります。

○ 特に留意した取り組み

- ・利用児童が安全安心に過ごせるよう、送迎時に児童の様子を伝えるなど保護者とのコミュニケーションを大切にし、保護者との信頼関係を築くことに努めました。
- ・指導員の資質向上の為、日々の活動前の情報交換を積極的に行いました。更に長期休み前に指導員を集め、指導指針や避難経路の確認、児童の情報共有をすることで、指導の統一性を図りました。
- ・長期休み等多様なシフトに対応するため、指導員の生活状況を把握し、無理なく業務を行えるように努めました。
- ・要支援児童や自立支援事業等様々なケースに対応するよう、子育て支援連絡会やケース会議に参加し、学校や保健師、児童相談所等との情報共有を行うことで、児童クラブの機能を生かした支援を行えました。
- ・新型コロナウイルス感染症予防として、指導員や利用児童等の検温による健康管理、マスクの着用や手洗い・うがいの徹底、換気・加湿等、感染予防対策に努めました。

○ 利用件数と収入の推移

(単位 千円)

区 分	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
指定管理料	6,750	7,182	8,752	8,368	9,381
利用料収入	4,343	3,796	2,578	2,497	2,645
利用児童数(延)	7,421人	6,466人	3,959人	4,169人	5,547人
実績内訳	年間延べ利用者数			5,547人	
	通年利用児童数(延)			5,412人	
	長期休暇時利用数(延)			135人	
	スポット(一時)利用			0人	

○実施した主な事業や行事

《ボランティア体験》	《夏休み行事》	《事業》
<ul style="list-style-type: none"> ・農園作業体験 (認知症アクション農園) ・いきいきサロン (高齢者と交流) 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座 ・絵本の読み聞かせ (虹の会) ・手話で遊ぼう！ (志田春美さん 2回開催) ・防災体験 (湯沢町赤十字奉仕団等) ・美味しんぼ倶楽部の お昼ご飯 	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りおやつ (5月～11月) <p>※ コロナの感染状況により中止した時期も含む</p> <p>《中止した行事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クッキング (食生活改善推進委員会) ・手作りおやつ (12月以降)

7. 介護保険・障害福祉事業



◎訪問介護事業所

訪問介護は中山間地における在宅介護の原点であり、湯沢町においては、遠隔地(三国方面)の利用者への訪問は、地形上経営的に非効率であること等もあり、当事業所だけが運営しています。

(1) 訪問件数と介護保険収入の推移 (単位 件、千円、%)

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
利用件数	5,595	6,441	6,182	6,016	5,957
収入	25,127	29,189	28,910	30,283	29,438
収入前年対比	115.4	116.1	99.1	104.7	97.2

(2) 目標達成への取り組み

○ 重点目標

①「利用者が安心して自宅で過ごせると感じることもできる、生活の場づくりを目指します。」について

- ・利用者の心境や身体状況などを踏まえ「利用者に向き合う」ことで「利用者が望む暮らし」に近づけるようスタッフ全員で努めました。
- ・毎日の訪問記録をサービス提供責任者が確認し、必要に応じサービス内容について適切な助言や見直しを行いスタッフ全員で情報を共有し統一したサービス提供に努めました。
- ・コロナに感染した独居利用者(2名)に対し、徹底した感染予防対策を行った上でサービス提供を継続し生活を支えることができました。

②「職員の資質向上に努めます。」について

職員個々にあった研修計画を作成し、研修に参加することで個々のスキルアップや資質向上に努めました。研修の内容は毎月のミーティングでさらに学びを深め業務に対する知識・技能の向上に努めました。

外部研修	苦情解決責任者研修、介護技術研修、ハラスメント防止研修 訪問介護員の心得研修、介護予防スタッフ研修 パーソンセンタードケア※実践する上で大切なこと研修 ※パーソン・センタード・ケアとは「その人(認知症)を中心としたケア」
内部研修	心肺蘇生法、AED取扱い方法について、 職員のモチベーション向上について、地域ケア会議の復命

上記の他、地域ケア会議、個別検討会へ職員全員が参加しました。多職種がそれぞれの専門知見共有し意見交換・情報共有することで事業所職員全員が地域包括ケアシステムの一員であることを意識するとともに専門性を高め業務に活かすことができました。

③「多様な勤務体系による人材の確保・育成・定着に努めます。」について

昨年に引続き直行直帰の仕組みづくりについて、地域の幅を広げ情報収集を行い、それらを参考に検討を進めました。「特定事業所加算要件」である情報の伝達、個人情報の取扱い等、様々な課題について検証が必要であり、介護人材の確保も含め引き続き検討を行います。

◎通所介護事業所

多くのスタッフで、大勢の利用者の皆様にサービス提供する事業所であることから、スタッフ間の連携や共通認識を大切に、利用者や家族の皆様の支援を行いました。

(1) 利用件数と介護保険収入の推移 (単位 件、千円、%)

区 分	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
利用件数	7,884	7,037	6,999	7,726	7,439
収 入	76,723	69,228	68,126	73,825	68,854
収入前年対比	97.5	90.2	98.4	108.3	93.3

(2) 目標達成への取り組み

○重点目標

①「満足度の高い事業所を目指すとともに、稼働率向上及び新しい加算取得により介護報酬増を目指します。」について

アンケートを実施する事で事業所に対するご意見や満足度などの把握に努め、業務へ活かせるように努めました。新規受け入れや追加利用の案内を積極的に行いましたが、冬季療養入院・当日の体調不良・大雪による「外出を控えたい」ご利用者や新型コロナウイルス感染症事業所内クラスターによる 6 日間の休業等で利用人数や収入が伸び悩みました。10 月より介護職員が 1 名増となりましたが、感染対策等で日々の業務に追われ、加算取得や加算取得に向けての学びを深めるまではできませんでした。

②「常に誠意をもって質の高いサービスが提供できるよう職員の資質向上を目指します。」について

内部研修や業務改善会議の場を活用し、日頃の業務に活かせる内容や介護に携わる内容について不安事の解消に努めました。学びを深めることで、ご利用者の状態を職員全体で把握・共有することが望ましいところではありますので、資格取得に取組み、一段上の資格を取得した職員もいましたが、個々のスキルや取り組む意欲・熱意に個人差もみられました。

③「新型コロナウイルス感染拡大を徹底しながら、安心して利用頂けるように努めます。」について

事業所全体で感染予防について話し合いの時間をもち、常に「今、何が必要でどうしたら良いか。」と意見交換する事でその時々にてできる最良の策を講じてきました。新型コロナウイルス感染症事業所内クラスター（利用者 7 名、職員 3 名）による休業で、ご利用者・ご家族へ大変なご迷惑をお掛けしてしまいました。引き続き基本的な感染予防対策を徹底し、ご利用者・ご家庭へ体調観察等の協力依頼を継続してまいります。

◎居宅介護支援事業所

地域の特性を踏まえ、地域で支えあう仕組みづくりを意識しながら、コロナ禍においても介護保険サービスと多職種や地域の社会資源とが連携し、その人が望むその人らしい暮らしの実現に向けて継続した支援に努めました。長期化するコロナ禍、感染拡大によって、サービス事業所が一時休止する事態が発生した際には、代替案を検討してサービスの調整を行ない、利用者の生活に与える影響の緩和に努めました。

(1) 居宅介護支援事業の利用件数と収入 (単位 件、千円、%)

区 分	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
利用件数	1,412	1,420	1,389	1,449	1,288
収 入	20,382	16,387	18,901	22,790	19,229
前年対比	111.3	80.4	115.3	120.5	84.4

(2) 目標達成への取り組み

○重点目標

① 「ACP (人生会議) についての取組み」について

*ACP (アドバンス・ケア・プランニング) とは

「もしもの時 (人生の最終段階) に備えてあなたの大切にしていることや望み、どのような医療・ケアを望んでいるかについて、自分自身で考え、自分の信頼する人達とあらかじめ繰り返し話しあうこと。」

ACP 普及・啓発ツールを活用した取り組みについては、コロナ感染拡大に伴い、実践での取り組みを行なうことができませんでした。しかし、湯沢町保健医療センターにおいて開催されたACP研修会に参加することができ、「はじめてのACP」というテーマで、ACPとは何か、ACPの普及方法やACPを行なうことによって、自己決定権を尊重する意味でとても重要な事であると言う事や、ACPはその人が最期までどう生きたいかを共有していくことのプロセスだということを学ぶことができました。学んだことを実践で活かすことができるように、引き続き次年度も取り組んでまいります。

② 「事業所内での事例検討会の実施」について

事業所内で、定期的に毎週伝達会議を行い、見出された課題の解決に向けた意見交換等、ケースを振り返る取り組みを行ってきました。更に、解決困難な事例については、地域ケア会議等に事例提供を行ない、多職種間での検討を行ってきました。

③ 「研修会への参加や交流会の開催」について

○ 研修会

新型コロナウイルス感染拡大の影響からオンライン研修を含め一部内容や日程変更等はありませんでしたが、各介護支援専門員が掲げた研修目標に添い、研修に参加しました。

- ・主任介護支援専門員研修
- ・介護支援専門員更新研修
- ・認定調査員研修
- ・成年後見制度研修

○ 介護者交流会・・・昨年に続き、感染拡大防止の観点から中止といたしました。

8. 連 携

社会福祉団体との連携

① 共同募金会

共同募金会の組織は、中央募金会、新潟県共同募金会、市町村共同募金会があり、湯沢町共同募金委員会会長には湯沢町長が任命されています。

共同募金は町民皆様の戸別募金と、企業等の皆様からの法人募金や学校募金に大別されますが、善意の募金は全て新潟県共同募金会に送金したのち、一部を除き湯沢町に配分され地域の福祉に使われています。



○ 令和4年度募金実績

募金種類	R 4	R 3
赤い羽根募金(戸別募金・法人等募金)	1,678,812 円	1,666,678 円
歳末助け合い募金	562,800 円	564,000 円

○湯沢町への配分金は次のような事業に使われています。

- ・身体障害者団体支援
- ・ボランティア団体支援
- ・老人クラブ事業支援
- ・歳末助け合い慰問事業
- ・各種サロン事業
- ・長期入院入所者援助

②愛の協力運動

町内会のご協力により、本年度も更生保護法人新潟県保護観察協会の事業に賛同いただく方から愛の協力金として取りまとめをいただきました。

募金種類	R 4	R 3
愛の協力運動協力金	566,100 円	568,500 円

○愛の協力金は、次のように使われています。

- ・社会を明るくする運動支援
- ・保護司会の活動支援
- ・保護観察対象者支援
- ・更生保護施設への助成

9. 苦情相談、ヒヤリハット、介護用品等貸出等の状況

○ 福祉サービスに関する苦情解決について

苦情相談の状況

	R2年度	R3年度	R4年度	増減	備考
苦情相談件数	2件	1件	1件	-	通所介護 1件

* 「きつい口調で注意され自尊心を傷つけられた。」

○ ヒヤリハット等報告

* 通所介護事業所

R4年度	件数	内 訳			備考
		身 体	身体以外	その他	
ヒヤリハット	21	19	2	0	
事 故	4	4	0	0	
車両事故	1	0	0	1	
合 計	26	23	2	1	

* 訪問介護事業所

R4年度	件数	内 訳			備考
		身 体	身体以外	その他	
ヒヤリハット	2	0	0	2	訪問日時等
サービス内容	2	0	2	0	
その他	3	0	3	0	
車両事故	1	0	1	0	
合 計	8	0	6	2	

○ 介護用品等貸出状況

R4年度	合計	内 訳				備考
		車椅子	ポ-ダブルトル	シャ-椅子	その他	
件数	42	25	9	6	2	